

平成26年度 第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会

戦 評 用 紙

試合番号

4

男子 ・ 女子 3回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 スカイホール豊田D コート

<p>横浜創英</p> <hr/> <p>チーム名</p>	<p>25</p> <hr/> <p>総得点</p>	<table border="0"> <tr> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td style="text-align: center;"> <p>10 — 6</p> <p>15 — 9</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>7mTC</p> </td> <td style="font-size: 2em;">{</td> </tr> </table>	}	<p>10 — 6</p> <p>15 — 9</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>7mTC</p>	{	<p>15</p> <hr/> <p>総得点</p>	<p>高岡向陵</p> <hr/> <p>チーム名</p>
}	<p>10 — 6</p> <p>15 — 9</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>7mTC</p>	{					

両チームとも多数の応援を受け、序盤からスピード感溢れる試合が展開された。

どちらも堅い守りからショートパスを連続してつなぎ、敵陣へ素早くボールを運び、

チャンスを伺った。しかし、両チームとも攻守の切り替えは速く、なかなか決定的

チャンスを生み出せず一進一退の攻防が続いた。前半20分、7mスローのピンチを

横浜創英GK16番東原がナイスセーブ。ここから横浜創英が流れを掴み、4連続得点。

10対6、横浜創英のリードで前半を終えた。後半に入り、高岡向陵はコートを広く使い、

サイドシュートを中心に流れを掴みかけるが、チャンスをことごとくGK東原に阻まれる。

そしてそれを再び素早いショートパスで速攻へつなげた横浜創英が連続得点で

高岡向陵を突き放す。7mスロー3本を含む、要所でのGK東原のナイスセーブで流れを

つかみ、持ち前のスピードに乗った横浜創英が10点差をつけて勝利を収めた。